

られる茎漬（カブや大根の茎、葉を麴や塩で漬けたもの、冬の食用）も、去年と異なり、歯切れよく食することができなくなったという意味である。このことは、だいたい40歳頃から腎機能がおとろえてくる事から、一茶も例外でなかったことが、判明する。「歯は骨の余り」であることは、内経で有名な記載であり、若い時からの苦労が40代に入った時に急速に歯周病がすすんだことが考えられる。しかし、一茶は歯がなくなった後も、妻帯し、子供をもうけるも、一人を除き育たなかったことから考えて、腎虚であったと思われる。

芭蕉も蕪村も、歯周病であったことが判明しているが、一茶もまた歯周病であった。一茶は、そのたぐいまえなる上昇指向と野性力で独特な俳風をきずいていくことになるのだが、今回、一茶の歯の発句を通して、その特殊性を考察した。

21) 『鳥獣人物戯画』と『病草紙』

Tyozyuugiga and Yamainosōsi

医の博物館 西巻 明彦
日本歯科大学 屋代 正幸

Akihiko Nishimaki, *Museum of Medicine and Dentistry*
Masayuki Yashiro, *Nippon Dental University*

演者らは、文化と歯の表象の関係についての探究をすすめている。『病草紙』は、平安時代、口臭、重舌、歯周病など歯科疾患が描写されている数少ない絵巻物である。『病草紙』とは後世名付けられた別称であり、どのような正式名称であったのかすら不明であり、その制作意図も後代になってみれば、はっきりしたことはわからない。そのため数多くの推論が生まれる背景となっている。病という現象は、本来忌みの行為であり、平安時代は医療よりも呪術が優先される時代であった。今日、一連の絵巻物群は、後白河法皇が制作を命じ、その内容を手づから指示をなし、蓮華王院の宝蔵庫に収納される王権の宝物であったという説が、なかば定説化している。当然王権の宝物であるならば、当時の医師達が内容を見る機会はきわめて少ないと言える。となれば、『病草紙』は医師に見せる絵巻物でない以上、治療についての記載は必要のないことになる。『病草紙』に描かれている

病は、特異な疾患もあるが、日常ありふれた疾患も多い。六道絵と『病草紙』を見るむきもあるが、仏罰を受けるほどの疾患ではない病もみられる。いずれにしても、貴族社会から武家社会へ移行する院政期の文化として『病草紙』をとらえるならば、後白河法皇の制作したといわれる一連の絵巻物群と比較対称することは、その制作意図をとらえる上で、必要なことである。今回、『鳥獣人物戯画』について『病草紙』との比較を行った。

『鳥獣人物戯画』は、高山寺に伝えられている甲、乙、丙、丁巻が有名であるが、その断簡が各地に伝承されている。鳥羽僧正の作と言われているが、実際には各巻で筆法が異なっているので、数人の絵師がかかわっていることは明らかである。もっとも古い『鳥獣人物戯画』の高山寺の記録は、永正十六年(1519)6月5日付で『東経蔵本尊御道具以下請取注文之事』に「シャレ絵三巻箱一二入」と記載がある。今日、この「シャレ絵」が今日の『鳥獣人物戯画』と言われている。高山寺は『嚴助住年記』によれば天文16年(1547)戦乱により炎上したことが伝えられており、この時の戦火で『鳥獣人物戯画』もなんらかの被害をこうむったことが考えられ、復元のさいに従来とは異なる絵巻ができたと考えられている。このため、本来の『鳥獣人物戯画』がどのようなものであったのかについて再現研究が今日行なわれている。上野憲治氏の仮説によれば、甲巻は2巻にわかれ、乙巻は1巻本としている。また各巻の展開場面は、甲巻の1巻目は、祭りの行列、相撲、双六、囲碁、腕相撲、首引き、走り高跳び、法絵、印字打ち、田楽、甲巻の2巻目は、競馬、蹴鞠、舟遊管弦、水遊び、的弓、乙巻は、馬、牛、鷹、犬、鶏、鶯、玄武、麒麟、豹、山羊、虎、獅子、竜、象、獏という順序になるという。『病草紙』と比較対照した場合、重要なのは、甲巻で、この一連の展開は、当時の京の貴族、あるいは庶民の生活様式を、鳥獣に仮託して描かれていると考えられる。『鳥獣人物戯画』の中で、兎と蛙の相撲、田楽見物の猿と蛙の喧嘩などそのまわりをとりかこむ鳥獣のしぐさが、『病草紙』の肥満の女、白子の女などと相似点が存在する。このことは、ひとつの描写様式が存在していたことが推測される。『今昔物語』、『古今著聞集』によれば、嗚呼絵の存在、さらに当時絵画論が盛んであったことが明らかであり、描写

対してもそれなりの一定の概念があったと考えられる。『鳥獣人物戯画』の乙巻の角突き合わせの二頭の牛の図は、『年中行事絵巻』にもみられ、その『年中行事絵巻』の中に、加茂祭の行列の中にみられる風流笠の上に鳥獣の描写がみられる。今日、『年中行事絵巻』が後白河法皇によって作られていることがはっきりしているので、『鳥獣人物戯画』もやはり後白河法皇と何らかの関係があり、蓮華王院の宝蔵庫に収蔵されていたと推測される。

『病草紙』も、病という日常おこる現象を主題としており、また『鳥獣人物戯画』も日常生活を鳥獣に置き換え描写したならばそこに共通性を見出すことができる。

22) 長崎市聖福寺のお春の碑

Monument of "OHARU" at SYOUFUKUJI in
NAGASAKI City

北九州市 上瀧口 武
袖ヶ浦市 長谷川 弥

Takeshi Kamikatakuchi, Kitakyushu City
Hisashi Hasegawa, Sodegaura City

1. はじめに

長崎市上筑後町黄檗宗聖福寺境内に「じゃがたらお春」の碑が建立されている。その建立のいきさつと、お春の素性について検証を試みたので報告する。

2. 紅毛人との混血児、血族の国外追放

島原の乱後、キリスト教徒の取り締まりを強化した徳川幕府は、在住のオランダ人、イギリス人やその血統を引いた混血児、母親に至るまで国外追放処分にした。これらのいきさつは、長崎の天文学、地理学、暦学者の西川如見（1648～1724）が1720年（享保5年）に著わした「長崎夜話草」全五巻のうち、第一巻に「蛮人子孫遠流之事」「紅毛人子孫遠流之事付じゃがたら文」として詳細に書かれている。

寛永16年平戸、長崎に住んでいた紅毛人およびその家族、混血児11人がジャガタラ（ジャカルタの古称）へ国外追放された。この中に14歳のお春も入っており、追放されて3年後に長崎のおたつに宛てて出した便りが世にいうじゃがたら文

である。枕詞、もじ詞を使い、和歌四首を詠み込む3000字におよぶ美文調の擬古文である。14歳まで長崎で育ち、国外追放後3年を経て17、8の娘の手による消息文とはとても考えられない。平戸観光資料館に「コショロのじゃがたら文」が所蔵されており、これはジャワ更紗を縫い合わせた袱紗に書かれているもので、「日本こいしや こいしや かりそめにたちいでて 又とかえらぬふるさととおもへば心も こころならず なみだにむせびめもくれ、ゆめうつつとも さらにわきまえず候へども、あまりのことに ちゃづつみ一つ しんじまいらせ候 あら 日本こいしや こいしや 日本こいしや こいしや こしよろ うば様、参る」とあり、日本こいしや こいしやの文言があまりにも哀れで心を打つものがあるので借用した如見が、お春の「じゃがたら文」を書き上げたものではないかと考えられている。この点に関しては、大槻玄沢が往年長崎に遊びしとき、お春が文の真跡さぐり求めけれど誰彼が家にありなど人のいふまでにて、たずね得で帰りき、……よりて考ふるに、夜話の文はうたがうべきもなき西川の偽作と見ゆるなり。……いまだ三五の満たぬおみなのおとけなきとき放たれしその前に、いかでかかる中古のふみの詞を知り覚ゆべきにもあらず。と看破し、また玄沢の門弟山村才助もその著書「訂正増補采覧異言」の中で「其文辞悲切ニメ観ルベシ。然レドモ人多クコレヲ偽作ナランカト疑フ者アリ」とやはり偽作であろうと述べている。近代では明治26年刊「まゐらせ候文範」の編者、佐藤 寛も「じゃがたら文」は如見の偽作であるとの見解を述べている。お春の「じゃがたら文」が現存していないこと、後年「しもんず後家お春の手紙」の文体内容が異なることからして、如見の創作と考えてよいであろう。

3. お春の生い立ちと生涯

イタリヤ人でポルトガル船の航海士をしていた父ニコラス・マリンと母マリヤ（本名不明）の次女として1625年3月出生。

4歳年上の姉万がいた。父ニコラス・マリンはお春9歳の時に亡くなっている。寛永16年（1639年）母マリヤ（37歳）姉万（19歳）このときメステル・マルテンと結婚していて万吉（3歳）がいた。お春（14歳）母娘孫4人がじゃがたらへ流されて後、お春20歳の秋に、同じ境遇の混血児シモ